

更新プログラム提供のご案内

お客様 各位

Galileopt DXにつきまして、以下の内容に対応した更新プログラムを提供いたします。
お客様におかれましては、当案内をご確認いただき、更新プログラムの適用をお願いいたします。

<主な対応内容>

- ・ 財務大将 令和8年インボイス改正対応（経過措置期間延長・控除可能割合変更対応）
- ・ 財務大将 伝票入力 不具合対応
- ・ 人事大将 労働条件通知書 新様式対応
- ・ 販売大将／債務管理／工事大将 令和8年インボイス改正対応
- ・ ワークフロー 機能改良
- ・ 各システムの機能改良および不具合対応

1. システムの対応内容について

対応内容は次のとおりです。

【Galileopt DX 財務大将】

- 令和8年インボイス改正対応
 - ・ 令和8年インボイス制度改正に伴い、免税事業者等からの仕入れの経過措置の期間延長と控除可能割合が変更になったことから、経過措置期間に従って、80%、70%、50%、30%の免税仕入経過措置マークおよび消費税額がセットされるように対応しました。

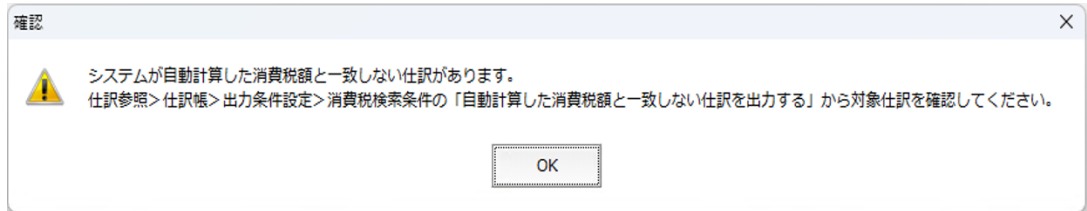
（注意点について）

本バージョン適用前に、2026年（令和8年）10月1日以降の日付で免税事業者等からの仕入れに係る仕訳を入力していた場合、消費税額が50%控除割合の金額で計算されています。バージョンアップを実行しても、対象の仕訳は改正後の控除割合で自動計算されません。改正後の控除割合で再計算するには「免税仕入経過措置入力方法」の設定に応じて、次の対応を行ってください。

<「控除額で仕訳入力する」の場合>

内税の仕訳は「マスター再計算」または仕訳の直接修正により集計金額が正しくなりますので、「内税分消費税額を再セット」を[1：する（手修正は除く）]に設定した状態で10月以降の仕訳に対して「マスター再計算」を行ってください。なお、手動で税額を入力した仕訳も対象とする場合は[2：する（手修正を含む）]を選択してください。

外税の仕訳は「マスター再計算」では正しくならないため、仕訳を直接修正してください。対象の仕訳の検索及び修正方法については「[Galileopt 財務大将 控除割合変更に伴う対象仕訳の検索・修正手順](#)」をご確認ください。また、システムが計算した消費税額と一致しない仕訳がある場合は、消費税関係資料の起動時に次のメッセージを表示します。



＜「後で雑損失計上する」の場合＞

消費税関係資料の「うち国税分」の金額が控除割合50%のまま集計され、正しく表示されません。

対象の仕訳の消費税額を直接修正しても集計金額は正しくならないため、

【マスター再計算】を2026年10月以降の月に行ってください。

※マスター再計算実行前にデータバックアップを取得することを推奨しています。バックアップの取得についてご不明点があれば担当支社にお問い合わせください。

・本改正に伴いインボイスFAQ集を更新しました。FAQ番号：11444を参照してください。

● 伝票入力 不具合対応

- ・伝票入力において、免税事業者等の取引先を使用し、標準税率で登録した定型仕訳を使用して伝票を入力すると、伝票日付を確定した際に、下記「不具合発生条件」を満たす明細の消費税額が、標準税率（10%）ではなく、999%を税率として計算した値となっていた点を修正しました。（この場合、消費税額は本来の額のおよそ10倍になります〔現行の標準税率10%の場合〕）。

＜対象処理＞

振替伝票ミロク型、振替伝票コクヨ型、入金伝票、出金伝票、仮払精算伝票、手形入力

＜不具合発生条件＞

- ・消費税コード：内税
- ・消費税率：標準
- ・金額：入力済み
- ・未確定行ではないこと（行Noが赤字ではないこと）

【Galileopt DX 人事大将】

● 労働条件通知書 新様式対応

- ・労働条件通知書・雇用契約書について、令和8年10月1日施行の改正内容に準拠した新様式に対応しました。

【Galileopt DX 販売大将／債務管理／工事大将】

● 令和8年インボイス改正対応

- ・「仕入明細表」「仕入先元帳」等における免税事業者等との取引を示す記号について、改正後の控除割合および適用期間に対応しました。なお、各記号は『会社基本情報登録 > 仕入情報』で変更できます。

【Galileopt DX ワークフロー】

● 機能改良

- ・.NET 10に対応しました。
- ・MJS DX Workflow用の会社データを作成した日から3年後の日付を有効期限として表示するように対応しました。
- ・Windowsのローカルセキュリティポリシーで「暗号化、ハッシュ、署名のためのFIPS準拠アルゴリズムを使う」が有効になっている環境で処理実行時にエラーが発生しないよう、仕様を変更しました。
- ・選択した取引先をもとに事業者区分を設定する際に、取引先の登録日・失効日を考慮するように対応しました。
- ・MJS DX Workflowへのデータの連動処理の負荷が軽減されるように対応しました。

- ・ Java 21 パーミッシブ・ライセンス終了(2026年9月)に伴いJava 25に対応したSEIKO製 SDK(eviDaemon for PAdES Ver6.5)に対応しました。

【各システムの機能改良および不具合対応について】

機能改良および不具合対応については、[\[Galileopt DX システム対応一覧\]](#) をご参照ください。

2. オンラインアップデートについて

オンラインアップデートでは更新プログラムが自動でダウンロードされますが、バージョンアップは通常、自動では実行されません。ダウンロード後に必ずバージョンアップを実行してください。

※自動インストールの設定を行っている場合は、自動でバージョンアップが実行されます。

※オンラインアップデートの詳細につきましては、DVD-ROMのManual > インストール手順書フォルダー内の「Galileopt DX MJSオンラインアップデート.pdf」または、GOODWILL PLUSサイト「よくあるお問い合わせ」のFAQ番号：5834をご参照ください。

3. バージョンアップについて

- (1) バージョンアップの方法につきましては、DVD-ROM のManual > インストール手順書フォルダー内の「Galileopt DX バージョンアップ手順書.pdf」をご参照ください。
- (2) バージョンアップを行う前に、必ずデータをバックアップしてください。
- (3) 本プログラムを適用した場合には、クライアントおよびWebクライアントでのセットアップが必要です。
- (4) Ver.1.12以前からVer.1.13へバージョンアップを行った後に、DBバージョンアップ処理を実行してください。DBバージョンアップ処理が行われていない場合は、会社選択画面で該当の会社データを選択できません。
- (5) DBバージョンアップ処理の操作方法については、「Galileopt DX設定編 共通情報操作マニュアル」をご参照ください。
- (6) MJS DX Workflowを合わせてご利用の場合、MJSLongPollingServiceをバージョンアップいただく必要があります。GOODWILL PLUSサイトから2026年8月6日版のインストーラをダウンロードいただき、インストールを実行してください。

4. システムに関するお問い合わせ

システムに関するお問い合わせは、GOODWILL PLUSサイト「よくあるお問い合わせ」または「MJS AIアシスト」をご利用になれます。

【GOODWILL PLUSサイト「よくあるお問い合わせ」「MJS AIアシスト」について】

GOODWILL PLUSサイトの「よくあるお問い合わせ」「MJS AIアシスト」は以下の方法でご覧いただけます。

▼【Galileopt DXホームウィンドウ】



「MJS AIアシスト」とは株式会社 ミロク情報サービスが提供する製品について知りたいことを質問形式で入力することで、生成AIが回答を提示するチャット型サポートサービスです。「MJS AIアシスト」では、「よくあるお問い合わせ」「操作マニュアル」「カスタマーサービスセンターに蓄積されたナレッジ」をもとにAIが生成した回答を表示します。「MJS AIアシスト」は無料でお使いいただけます。

「MJS AIアシスト」の使用方法については、GOODWILL PLUSサイトの「よくあるお問い合わせ」のFAQ番号：12629を参照してください。

5. その他のご注意

システム使用上の注意事項については、次のとおりです。

- (1) システム全般（インストール等）のお問い合わせは、「ソフトウェア運用支援サービス」にご加入いただいているお客様は、加入者専用電話にてお問い合わせを承ります。
- (2) 操作説明の詳細については、ヘルプ機能および各システムの操作マニュアルをご覧ください。
- (3) プログラムインストール後、データはすべて本プログラム専用となります。以前のバージョンのプログラムでは使用できなくなりますのでご注意ください。

以上